

わかまつ まさし  
若松 正志

文化学部 教授  
文学修士/  
東北大学(大学院文学研究科)

☒ ホームページ URL  
<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/wakamatu/index-oj.htm>

## 主な研究業績

- 「角倉了以・素庵の人物像－近世～近代に強調された側面－」(森洋久編「角倉一族とその時代」思文閣出版、2015)
- 「イエズス教会領から「長崎口」へ」(荒野泰典他編「地球的世界の成立」＜日本の対外関係5＞(吉川弘文館、2013)
- 「後桜町天皇宸記(宝暦13年8月条～明和元年7月条)」(筆者名は後桜町女帝宸記研究会。翻刻分担、解説の一部執筆)〔京都産業大学日本文化研究所紀要〕第7・8合併号～第16号、2003～2011)
- 「典仁親王」〔歴史読本〕第819号、2007)
- 「仙台市史 通史編5 近世3」(共著書。分担執筆)(仙台市、2004)
- 「歴史教科書の可能性」(共著書。分担執筆)(青木書店、2002)
- 「貿易都市長崎の成立と構造」(21世紀の関西を考える会編「あろーら」第14号、1999。<http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/wakamatu/mwoj2502.htm>)
- 「貿易都市長崎における塵芥処理と浚」(丸山雅成編「日本近世の地域社会論」文献出版、1998)
- 「近世中期における貿易都市長崎の特質」(『日本史研究』第415号、1997)
- 「仙台藩領における長崎俵物の生産・集荷」(渡辺信夫編「近世日本の生活文化と地域社会」河出書房新社、1995)
- 「近世前期における長崎町人と貿易」(渡辺信夫編「近世日本の都市と交通」河出書房新社、1992)

## 研究テーマ Research theme

## 日本近世社会の研究

## 概要 Overview

江戸時代の長崎や京都を中心に、日本の近世社会について研究しています。

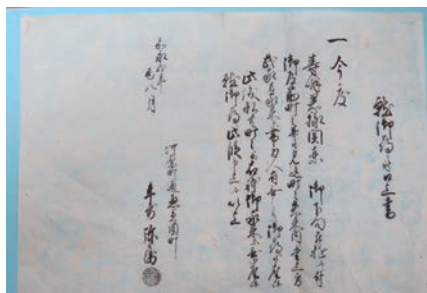
長崎は、江戸時代の対外関係・貿易・文化交流の要(かなめ)であり、幕府の政策、「鎖国」、貿易の変遷、長崎奉行、都市構造、町人の活動・生活、さらには貿易と国内経済・産業との関わりについて、研究を進めてきました。

京都については、朝廷(天皇・親王・公家)・社寺(賀茂社・吉田神社・泉涌寺・青蓮院・廬山寺)、産業(観光・商業・モノづくり)などについて研究を進めています。

2019年4月からは、新設された京都産業大学大学院京都文化学研究科(通信教育課程)修士課程の授業も担当しています。

日本の地域性や現代の問題、食文化、音楽、サブカルチャー(マンガ、アニメ、キャラクター)など、日本文化・日本社会全般についても関心をもっています。

なお、2008年10月から2014年3月までは、大学の教学センター長およびキャリア教育研究開発センター長を兼務。2014年4月から2018年3月までは文化学部部長を兼務。これらの業務や大学改革に関することからについても取り組んできました。



嘉永2年(1849)、寿明君(一条秀子)が徳川家祥(のちの江戸幕府13代将軍徳川家定)に嫁ぐ際の京都河原町三条近辺の行列の通行・安全に関する史料(若松コレクション)

## 応用分野 Application areas

歴史研究を軸にした諸活動。たとえば、生涯教育(歴史研究、地域史研究、古文書解読など)や観光(歴史+α)。

2019年度は、NHKのテレビ番組「天皇のディナー」制作にあたり、取材を受け、協力出演しました。また茨木市立文化財資料館のテーマ展に関連して、「閑院宮家の歴史と資料」というタイトルの講演を行いました。

## 共同研究等へのニーズ Need for joint research

歴史上の人物のイメージ形成や展開に関する問題などについて、共同研究ができればと思っています。